

今後の三陸漁業に漁具屋が貢献できること

廣野 一誠（アサヤ株式会社 専務取締役）

・ アサヤ株式会社のご紹介

アサヤ株式会社は、1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圏としています。現在、約80名の社員が在籍しており、営業が気仙沼・石巻・釜石・宮古の4箇所、工場が気仙沼・階上と大船渡・越喜来の2箇所に拠点を構えています。代々、「漁民の利益につながる、よい漁具を」の理念を守って、三陸の漁業家に向けて様々な資材・機械を提供してきました。

業態としては「商社」ですが、流通業よりはサービス業の色合いが強く、ただ単に商品をお届けするだけでなく、網の仕立てやロープの加工、漁撈機械の修理・整備・改造、造船所での船艇塗装工事、定置網の防汚加工、水中ロボットを使った漁場調査、といった付随する様々な作業を請け負うことを生業としています。

漁業は常日頃から自然との戦いですので、資材を提供させていただく我々業者には、災害に耐えられる必要十分な資材を提供することが求められています。例えばロープひとつ取っても、原糸の素材、撚り、太さ、熱処理のやり方によって特性や費用が変わります。アサヤでは、メーカーから新しい技術の情報を得つつ、現場の情報をメーカーにフィードバックしながら、二人三脚で良い商品を提供することを心掛けています。また、災害の際にも迅速に対応させていただけるように、商品在庫の確保や人材育成の取組みにも力を入れています。

事業概要



・ 復興の過程

アサヤの被害状況としては、気仙沼・石巻・釜石・宮古の営業拠点 4 箇所がすべて全壊・流出し、社員 2 名の尊い命も犠牲になりました。携帯電話の基地局が壊れて電話が使えなかったため、人海戦術で社員探しを進めていたところ、1 週間後くらいにはお客様から復旧資材の発注が入ったそうです。お客様からの声に大きな力をいただく格好で、早速事業再開の段取りを始めました。まずは運転資金の確保に金融機関との交渉を社長が進め、次に取引先メーカーから資材を回してもらうための与信獲得に常務が奔走しました。無事に運転資金と商品供給の目処が付いてからは、社員一同で 3 年間フル回転の毎日です。営業拠点はプレハブの仮設や賃貸の空き倉庫などで賄いました。従来の商品だけでは供給も間に合わないということで、他メーカーや代替品の可能性を探りました。補助事業の対応も慣れないことでしたが、お客様や職員の方々と協力しながら、何とか乗り切ってきた 5 年半でした。



・ 今後の展望

三陸の漁業が現在抱えている課題は、資源（＝漁獲量が確保できない）、収益（＝魚食需要が減り、魚価が高くなり、燃料代もかかり、利益が残りにくい）、労働力（＝少子高齢過疎化により、担い手がない）の 3 点であるとアサヤは捉えています。これまでの永きにわたって地域密着でやってきた我々としては、これらの課題に漁業家とともに取り組むパートナーでありたいと考え、面倒事を担う（＝アサヤ自身がお客様の手となり足となる）、機械化を進める（＝省力化・省人化を技術で支える）、漁法革新を図る（＝新しいやり方を一緒に模索する）、漁業啓発に努める（＝漁業に興味を持ってくれる人を増やす）、という 4 点に会社として取り組んでいます。

このうち、漁業啓発に努めることの一環として、アサヤでは観光客や地元の子供達を対象に、普段触れることのない「漁具」を知ってもらう観光ツアーを開催しています。気仙沼市では、震災復興計画の一つとして「水産と観光の融合」を掲げ、水産業の舞台裏を地元ならではの観光コンテンツに仕立てることを目指しており、その流れにも沿った取組みになっています。まだ漁業者の増加とまでは繋がっていませんが、アサヤ自身の採用活動には明らかにプラスに働いており、手応えを感じているところです。

